

オンラインで学び、考えよう！

社会課題（ごみ問題）

×

テクノロジー

「ごみ問題の解決に向けた新しい取組」

講師

小嶋 不二夫さん

株式会社ピリカ／一般社団法人ピリカ 代表

2021年3月3日（水）

報告



オンラインで学び、考えよう！

3月3日（水）に、オンラインで学び、考えよう！「ごみ問題の解決に向けた新しい取組（社会課題×テクノロジー）」を開催しました。本企画は、ボランティア活動をはじめとする様々なアプローチにより解決を目指している“社会課題”を多様な視点から捉えるとともに、その解決に向けた先進的な取組やノウハウを学ぶことを目的として開催しています。

今回は、本センターの学生コーディネーターがその取組に関心を持ち、お声がけさせていただいた小嶋 不二夫さんを講師にお招きし、ごみ問題の解決策として開発・運用されている「ごみ拾いボランティアSNS「ピリカ」」等について、お話を伺いました。定員を超える32名の方にご参加いただいて迎えた当日は、参加者からの質問にもご回答いただき、多様な観点から環境問題についての学びをいただくことができました。

講師プロフィール

小嶋 不二夫（こじま ふじお）さん

株式会社ピリカ／一般社団法人ピリカ
代表



大阪府立大学卒、京都大学大学院中退。在学中に世界を放浪、道中に訪れた全ての地域で大きな問題となっていたポイ捨てごみの解決を目指し、2011年に株式会社ピリカを創業。ごみ拾いボランティアSNS「ピリカ」の開発やポイ捨て調査サービス「タカノメ」の提供等、テクノロジーによるごみ問題の解決に取り組む。

当日の様子

第1部では、小嶋さんにご講演いただき、任意参加の第2部は、参加者同士で意見交換する時間を設けながら、そこで出た質問に対して小嶋さんからご回答をいただく時間としました。

■社会課題の「解決」にこだわり、辿り着いた起業

小嶋さんがこのような問題に取り組むようになったきっかけは、小学校時代にありました。小学校2年生の時に、たまたま環境問題（水質汚染やごみ問題等）の本を図書室で見つけ、すぐおもしろく見え、「このような大きくて深刻な問題を解決できたらとてもカッコいい人生だな」と思い、まずは研究者を目指して大学・大学院に進学されたとのことでした。しかし、いざ研究してみると、「論文を書いて新しい知識や発見から

人類の知見を増やしていくこと」が大事な仕事だと思っただけで、その先の“解決”までしたい自分の選択肢としてはあてはまらず、「研究者は向いてないかもしれないと思った」と話されていました。

そこから一度大学院を休学し、2年ほど世界を放浪した小嶋さんは、あらゆる都市で「ごみのポイ捨て」や「ごみの自然界への流出」の問題が起きていることに気が付きます。さらに、このごみ問題について、「ごみのことだからこそ、一つひとつは小さな問題に見えるが、世界中のありとあらゆる場所で同じことが起きていることからとんでもなく大きな問題なのではないかと思うようになった」、「ごみ処理産業は各国で行われているが、ごみのポイ捨てや流出については、問題が小さく見えることで、解決の主体が非営利の民間団体であったり、抜本的な解決策がなかったり、ビジネスモデルが確立されていなかったりした」、このような体験や気づきを得たうえで、「問題は大きくて将来絶対とかなければいけないにも関わらず解ける人がいない・会社がない状態だった」ということから「おもしろいし、チャンスだ」と感じ、旅を中断して日本に帰り、大学の研究室の片隅でこっそりプロジェクトを始めたとのことでした。その後、大学院を中退して、立ち上げた会社が現在の「ピリカ」だそうです。

ごみ問題の“解決”にこだわり、様々な経験や気づきを具体的な解決策やビジネスにつなげていった道のりを丁寧に説明していただき、会社としての「ピリカ」誕生につながった小嶋さんの想いや考えを知ることができました。

■ごみ拾いSNS「ピリカ」開発のきっかけ



ピリカは、ごみ拾いを楽しくする完全無料のボランティアSNSです。個人・グループの清掃活動を見える化することで、他のユーザーとその場所や成果を共有することができます。

小嶋さんをはじめとする「ピリカ」の方々、ごみ問題の解決するプロジェクトの一つとして、ごみ拾いSNS「ピリカ」の開発に取り組んでいます。このごみ拾いSNS「ピリカ」は、ごみを拾う人、ごみを拾ってもいいかなと考えている人が、拾ったごみやキレイになった街を写真に撮って共有していく無料のスマートフォンアプリなのですが、現在は世界100か国以上で利用されており、累計すると1億個以上のごみが拾われていることになるそうです。

このアプリ開発のきっかけも世界放浪中の2つの気づきにあ

りました。

その一つが、「犯罪マップ」です。ある国では、最近どこで強盗が起きたのかなどが地図上に現れる「犯罪マップ」が利用されていました。その地域の方は、それをもとにして子どもの通学路を変えたり、住むエリアを変えたりしていたそうです。ここから、「ここに問題がある」「このような問題が起きている」という情報を可視化すると、そこにいる人がその問題を解決したり、回避したりする行動をとりだすということを知ったとのことでした。

もう一つが、スマートフォンの写真機能の一つである位置情報サービスです。世界中を放浪していた小嶋さんは、ある日、スマートフォンで撮影した写真が撮影地ごとに整理され、その場所にピンを刺す形式で地図上に表示される機能を知りました。その時点で地球半周分の地域にピンが刺さっていたことへの世界を征服したような喜びを感じるとともに、デジタルカメラで撮影していた分の地域にピンを刺せないもったいなさを感じたそうです。その後小嶋さんは、写真を撮りたいからだけでなく、ピンを刺したいからスマートフォンで写真を撮るようになりました。このような体験を後に振り返った際に、「ちょっとしたゲーム性やおもしろさがあることで、人間は自分にとってメリットや嬉しさが無い活動でもするようになる」ということ、裏を返せば、「ごみ拾いや環境問題の解決のような面倒くさかったり、本人にとってメリットが無いことでも行動に移してくれる可能性があるのではないか」という考えに行きついたとのことでした。

以上のようなことを仕組みに取り入れることで、ごみ問題の状況を報告してもらったり、ごみを拾ってもらったりするようなプラットフォームが開発できるのではないかと考え、友人にプログラミングを教わりながらごみ拾いSNS「ピリカ」を開発したそうです。

旅の途中での気付きやアイデアをメモしていたというお話もありましたが、そのようなアイデアをアイデアで終わらせるのではなく、実際に自らの手で実現するというところに小嶋さんの情熱や強い意志が現われているように感じました。実際にプログラミングに挑戦してみるとセンスがないことが分かり、見るに堪えなくなった仲間が変わってくれたというエピソードもお話ししていただきましたが、全てが順調にいったわけではない中で、たとえば自分が苦手なことでもまずは挑戦し、試行錯誤しながら、そして仲間を集めながら進化させていったその意思が現在の様々な取組につながっているのだと考えると、大学生も様々な知識を取り入れるだけでなく、またボランティア活動などを通して体験したこと、気づいたことをそのままにするのではなく、各々がさらに次の一步に移していくことが大事なのかもしれません。

■環境調査やその評価の仕組み、ビジネス化等



「タカノメ」はスマホで「ポイ捨てごみ」や「歩きたばこ」の分布や深刻さを調査するサービスです。施策の効果測定や改善提案を通じて、きれいな街づくりに貢献します。



マイクロプラスチックの流出メカニズムは未だ不明点が多く、有効な解決策は見つかっていません。ピリカでは安価で効率的なマイクロプラスチック流出調査サービスを開発し、河川や港湾、下水処理施設等、様々な場所で調査と実態解明を進めています。

ごみ拾いSNS「ピリカ」の他にも、「タカノメ」「アルバト

ロス」等、様々な取組についてお話いただきました。それぞれの話の中では、評価やその指標を設定することによって実態や成果を明らかにすることや、データの活用を通して自治体や企業を巻き込みながらビジネスとしても確立することで持続的に、そして発展的に取り組むことができるような体制を整えること等、大事にされている点を教えていただきました。

国際的に注目され、その解決方法が検討されている環境問題ですが、ボランティア活動をサポートするツールの開発等、そのアプローチは様々です。今回は小嶋さんのお話から、仕組みや技術だけでなく、取り組み姿勢や問題への向き合い方等、多くの学びをいただきましたので、参加者の一人ひとりが次の一步につながられるようにセンターとしてもサポートに取り組んでいきたいと思えます。

参加者の声（一部）

- ・海に流れ出るプラスチックの成分の中で多いものが、人工芝由来のものであるということに驚いた。
- ・ピリカさんのビジネスモデルがとても面白く（企業のごみ問題への取り組みの促進）、かつ、ごみ拾いが身近に感じることができました。
- ・想定していたものより遥かに面白く興味深く聞きました。
- ・小嶋氏の幼い頃の興味から始まったことが、試行錯誤を重ねて自治体や企業を動かすまでになったのが素晴らしいと思います。同一業種企業間の対抗意識も利用するなど、今の社会で何かを成し遂げる為のしたたかさを持ち合わせているところも率直で好感が持てました。
- ・ゴミ問題の現状を知って、日本があまり綺麗じゃない国だということ、「問題に見える化すると解決するための行動を人間が取れる」という言葉が印象に残ったこと。これは自分のサークル運営に生かせるなと思いました。
- ・世界中に活動者がいる事に驚きました。
- ・ゴミという着眼点から様々な研究、それを面白いという観点を大事に民衆に広げつつ、企業にはあまりよくないデータを持っていることで連携を呼びかけ巻き込む、というマーケティングの観点でもとてもいい知見が得られて面白かった。
- ・問題解決をしようと考えた時に、闇雲にお金を出したり行動するだけで全てが解決するとは限らない。「問題解決をするための指標がない場合」もあるのでその指標から作る必要があることも多い。逆にその指標を作ってしまうえば多くの場面で役立つことが多く、結果的にプラスになったり進展したりすることも多い。という知見を得た。
- ・一人の活動がおおきな問題解決につながっていくというのが心に響きました。今日からアプリを利用したいと思います。
- ・企業が行う有益なメジャーごみ処理について知見を得たくて実際に港区のゴミ処理場に訪れたりしましたが、それだけではごみ処理の多様性、マイナーな非営利団体の大切さを知ることができたのでとても良かったです。途中で出していたいただいた、戦略のサイクルや企業に協力してもらうための姿勢などが参考になり、今後に活かしていこうと考えられる内容の濃い1時間半でした。ありがとうございました。

第1部の様子は、アーカイブとして本センターのYouTubeチャンネルで公開する予定です。ぜひご覧ください。



都立大ボラセン
YouTubeチャンネル

